

# 出張調査報告書

令和元年8月14日

松伏町議会議長 川上 力 様

自民クラブ  
代表 佐藤 永子



下記のとおり先進地視察をしたので届け出ます。

## 記

1 期 日	令和元年7月17日から令和元年7月19日
2 視 察 地	(1) 広島県尾道市 (旧瀬戸田町) (2) 島根県邑南町 (3) 山口県阿武町
3 視察目的地	(1) 音楽によるまちづくりの取組 (2) 日本一の子育て村構想 (3) 「選ばれるまちをつくる」取組
4 視察者氏名	佐藤永子議員 (代表) 高橋昭男議員 松岡高志議員 増田 等議員 田口義博議員
5 視察結果	行程、視察結果は別紙のとおり

## 自民クラブ先進地視察行程表

1 期 日 令和元年7月17日（水）～7月19日（金）

- 2 視察先 ①広島県尾道市瀬戸田（旧：瀬戸田町）  
 ②島根県邑南町  
 ③山口県阿武町

### 3 行程&スケジュール

日 時		内 容	備 考
1 日目 (7/17) 水曜日	7:20	新越谷駅に到着	新越谷駅前駐車場に止める。 増田車にて高橋宅 6:40⇒ 佐藤宅 6:45⇒駅前まで
	7:30 (出発)	中央林間行き（7両目） 新越谷で合流	松岡、田口（バス）せんげん台駅 （赤沼十字路発 7:02）
	8:58 9:50～ 11:15	羽田空港第1ターミナル（JAL257便） 広島空港着 🚗で移動	※途中で昼食・休憩とる。 約70km
	14:00 16:00	旧瀬戸田町役場	視察研修 音楽によるまちづくりの取組
	16:15 17:00 18:00	宿泊先へ 🚗で移動 市内での夕食	宿泊名 グリーンヒルホテル尾道 ☎0848-24-0100
2 日目 (7/18) 木曜日	7:50 (出発)	邑南町に向け 🚗で移動	宿にて朝食 約120km 視察研修
	10:00 12:00	邑南町役場	日本一の子育て村構想の取組
	12:00 13:00	昼食休憩	町内で昼食（観光協会）
	13:00 16:30 (着)	宿泊先へ 🚗で移動	SAで休憩 約150km 宿泊名 萩ロイヤルインテルジェントホテル
	18:00	市内での夕食	☎0838-21-4589

3日目 (7/19) 金曜日	8:45 (出発)	阿武町に向け (30 km) 🚗で移動	宿にて朝食
	10:00	阿武町役場	視察研修
	12:00		「選ばれるまちをつくる」取組
	12:00	昼食休憩	
	13:00		
	13:00	町内見学 🚗で移動	約 50km
	16:00	石見空港着	
	17:45	出発	ANA1104 便
	19:20 (到着)	羽田空港第2ターミナル	
	21:00	🚗で移動 せんげん台駅 解散	押上経由

## 視察結果 1日目

旧瀬戸田町は、平成18年1月現在の尾道市と合併した所で、南部では主に島々の海岸線に沿って平地が形成され、最南部は愛媛県と接している。

ここ瀬戸田町は隣の因島を経た生口島の静かなまちである。

なぜ、ここに音楽専用ホールが造られ、音楽によるまちづくり事業を進めてきたのか文化振興課長、しまなみ交流館館長より説明を受ける。

瀬戸田市民会館（ベル・カントホール）は昭和61年4月、多目的研修施設、老人福祉センター、中央公民館の3つの複合施設を10億2632万2000円で国の補助を受け建設された。

館の名称「ベルカント」とは、イタリア語で「よく響く美しい歌声」を意味するという。残響時間2秒とエローラホールに匹敵するホールでした。

世界的な演奏家を招いたコンサートを行う鑑賞型のプログラムと、地域に演奏家が出向き地域住民に芸術的な働きかけを行い、クラシック音楽の楽しさの理解を求める育成型プログラムを自主事業として展開した。

合併後は瀬戸田支所が所管、平成21年度から市内5か所の文化ホールを文化振興課文化施設係が管理運営を行っている。

### 稼働率の状況は

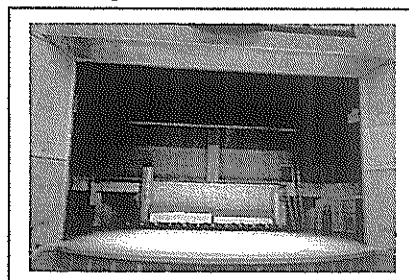
	しまなみ交流館	むかいしま文化ホール	ベルカントホール	因島市民会館	御調文化会館
平成25年度	59.0%	46.9%	29.8%	21.5%	9.9%
平成26年度	50.7%	38.1%	28.4%	24.7%	7.4%
平成27年度	57.7%	45.1%	28.3%	24.0%	7.8%
平成28年度	61.7%	51.0%	30.5%	26.4%	6.8%
平成29年度	64.6%	45.4%	28.5%	27.0%	7.5%
平成30年度	64.1%	45.6%	28.8%	23.4%	5.5%

※稼働率＝使用可能日数／使用日数

しまなみ交流館	690席	ベルカントホール	646席
むかいしま文化ホール	400席	因島市民会館	847席
御調文化会館	504席		

当時、財政的で裕福ではなかった瀬戸田町では、年間6～7公演を実施するのがやっとという状況の中、独自の公演形態を探りながら進めてきた。

その一つが「演奏家を少しでも町にとどめよう…」と考え、演奏会との交流会、可能な限り町に宿泊してもらい、“チェロやヴィオリンを担いで町中を歩く…”



などという姿も見られるようになり、「文化の薫るまちづくり」の出発となった。

広島県内にもホールがたくさん建設され、初めて自主事業を取り組むホールに協力するため、ネットワークで事業を行って来た。

平成4年全国音楽ホールネットワークが宝塚市長発案で瀬戸田町とともに事業展開してきたが、いつしか景気の下降と共に自主公演も減少、貸館となるホールも多くなる。ベル・カントホールも「いかに聴衆を満足させるか」という考えに立ち企画する。

それが、「ミニレジデンシープログラム」や「アウトリーチ」。

ホールから飛び出し地域の求めているものを探る事業展開に。

「ミニレジデンシープログラム」は演奏家が3～4日、瀬戸田に滞在し、小学校の教室や老人ホームに出向きミニコンサートを開催。コーラスグループと共演するなど共演したりといった仕掛けを、地域住民との交渉、一つ一つがプログラムを創っていく。新たな演奏活動を見出すことができた。

「新世紀・しまなみ海道事業」…から「しまなみ海響祭」へ

平成15年からこの事業をさらに発展させるため、文化芸術の掘り起こしと新しい文化の創造を見座板事業展開に、永六輔氏や和太鼓の林英哲氏の協力のもと、しまなみ地域の和太鼓団体、文化団体、自治体が協力し、「新世紀・しまなみ海道事業」として3ヶ年計画で取り組む。

平成17年度はその集大成として「しまなみ海響祭」を実施した。

令和元年度の自主事業は5事業と舞台芸術事業2事業を、年間予算2000万円を下回る金額で展開するという。

- |               |          |                   |
|---------------|----------|-------------------|
| ・2019せとだパリ祭   | ベルカントホール | S席5000円 A席3000円   |
| ・N響室内楽コンサート   | しまなみ交流館  | 一般2000円18歳以下1000円 |
| ・デュオコンサート     | ベルカントホール | 〃                 |
| ・トラッドジャズカンパニー | しまなみ交流館  | 〃                 |
| ・ギャラリーコンサート   | しまなみ交流館  | 無料                |

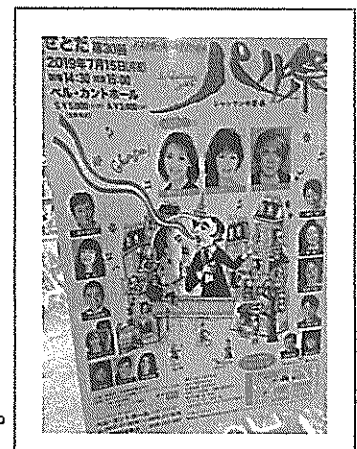
3ヶ年計画で進めることとは

財団法人地域創造の助成を受ける中で進めるには、単年度では困難。

市民の評価は

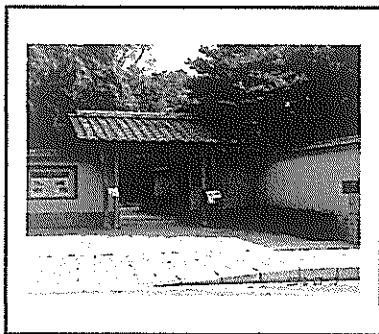
楽器に触れあうことの喜びを感じる。集客は増えてきた。

期待される成果は（一部抜粋）



- 事業に関わった市職員や市民スタッフの人生のモチベーションが向上されることにより広域化された尾道のそれぞれの地域が活性化される機動力として育っていく。
- 図書館での芸術関係書籍の貸出数増加。
- 市民の創造力、コミュニケーション力、表現力などが豊かになる。
- 音楽家との共同制作活動により、違った分野の市民課と同一にやる気と活力ができる。
- 音楽を通じた地域間交流(国内・国際)の活発化(パスポート取得数の増加)。

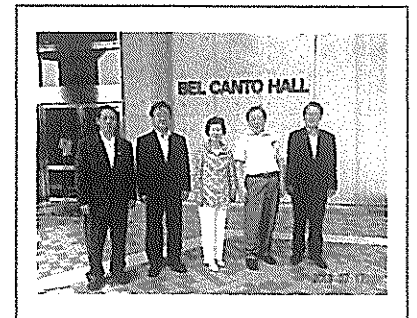
視察後、事務局のご配慮で平山郁夫美術館を弟の平山助成氏の案内で鑑賞。



平山美術館入り口



瀬戸田の島々を表す庭園



## 2日目

邑南町は、島根県中央部の山間にある自然豊かな町で、面積は419.29K<sup>m</sup><sup>2</sup>(山林86%)と松伏町の26倍。

人口は平成31年4月1日現在、10,693人、世帯数4,887世帯、高齢化率44.1%となる。

### 12公民館単位の地区別戦略の推進

明日が見える・地域が輝く邑南戦略(邑南町版まち・ひと・しごと創生総合戦略の具体的な施策の中で、「共に支えあう共助の仕組みづくりと地域コミュニティの自立促進」を実現するための一つの施策として挙げている。

地区別戦略とは、邑南町の人口減少に歯止めをかけるためには、地域との協働による取り組みが不可欠であると考えます。

人口減少が見られた時期は1985年からで2010年に危機感を持ち、対策を講じてきた。

国立社会保障・人口問題研究所の発表では、2015年推計値11,031人(実際は11,101人)と示された。

対策の効果あってか、将来人口推計がプラスに変化してきた。

2020年	10,128人	⇒	10,267人
2025年	9,291人	⇒	9,471人
2030年	8,551人	⇒	8,749人

15歳未満の人口推計もプラスに変化

2015年	1,140人	⇒	1,182人	+42人
2020年	1,006人	⇒	1,102人	+96人
2025年	886人	⇒	1,015人	+129人
2030年	796人	⇒	929人	+133人

4歳以下の児童人口も2016年までの5年間で、6地区が増加または維持された。

**攻めと守りの定住プロジェクト**（平成23年度から）

(1) ”攻め“のA級グルメ構想 **5年間**

2011年3月「A級グルメ登のまち」登録商標標

優れた食材や生産者への誇りも込めたネーミングで町全体をブランド化し認知度やイメージ向上に。

(2) ”守り“の日本一の子育て村めざして **10年間**

+ 徹底した移住者ケア

これらを成し遂げるため、専従職員を担当に置く。

合併10年後（平成25年）始めて人口動態（社会動態）が+20名、平成26年+6人、平成27年+28人となる。

年代別移動者数では、平成27年度	25歳～29歳	44人
	30歳～34歳	50人
平成28年度	25歳～29歳	53人
	30歳～34歳	38人

平成27年度島根県内のU・Iターン者数と20～30歳女性の数

	県内	邑南町
U・Iターン者数	4,252人	100人
内20～30代女性の数	981人（23.1%）	26人（26%）

邑南町は、20～30代の女性のうち、約4割がIターン者。

## 子育て支援の目玉施策

◇中学校卒業まで医療が無料

+ 安心な医療体制 24時間救急受付

◇保育料第2子目以降完全無料

ドクターヘリによる救急対応

**身近で安心な医療体制** (公立邑智病院)

診療科目 常勤医師 内科、外科、小児科、産婦人科など7科

非常勤医師 麻酔科、精神科、皮膚科

**子供が病気の時も安心**

町内2か所の病児保育室で看護師と保育士が看護対応。

保護者は、仕事へ。



## 教育

**学校図書室も充実**

小学校8校、中学校3校に司書11名を配置。

貸出冊数 平成21年度 22,957冊

平成24年度 50,432冊と倍増

**県立高校への支援**

◇保護者の負担軽減(寮費、バス通学定期)

◇補習授業の行使に現役東大生

オンラインでの学習塾

定員を確保するため、寮費など補助

↓  
**県内唯一の高校の存続**

●医療福祉従事者確保奨学金制度

町内の医療・福祉施設で業務に従事する意思のある人材の、専門・知識習得のための学費援助。

●農林業後継者育成基金(奨学金)

農林漁業者を育成するため、大学等において知識や技術の履修する過程に在学している学生に学費を貸与する。

卒業後、町内に就職した場合、学費の一部または全額免除。

●邑南町奨学金貸与事業

向上心を持ちながら経済的な理由によって就学ができない方に学費を貸与・支援する。



## 子育て村推進本部の評価

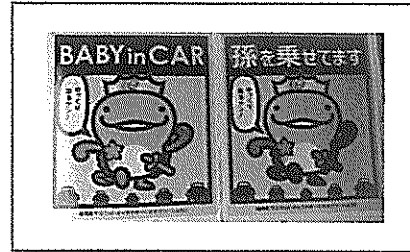
経済的な負担軽減の制度は十分である

次は

子育て村構想が掲げる理念 「地域で子育て」を実践  
日本一の子育て村を住民が実感できる町にする。

### 子供のお誕生日をお祝いする

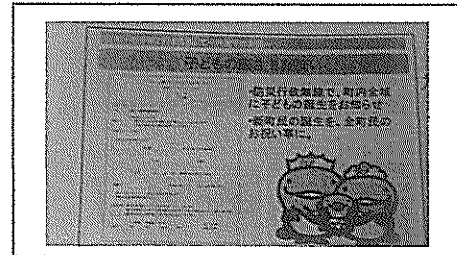
出生届をカラーコピーにして専用  
ファイルに入れて渡す。  
車用ステッカーを2枚（648円）  
（BABYinCAR/孫を乗せてます）を  
プレゼント。



### 防災行政無線でお知らせ

保護者の同意のうえで、町内全域に  
子どもの誕生をお知らせする。

各戸に受信機を設置しており、新町  
民の誕生を全町民の祝い事に。



※地域内では、田んぼの畦道（のり面）  
に草花で名前を表示することも。

### 保育園の給食

平成23年度から、入園児のお米代は町が全額負担。

### 子育てポイント制度

子育てサービスを利用するだけでポイントが貯まります。

○4カ月健診を受けると20ポイント（夫婦で行くと40p）

1歳6カ月健診、3歳児健診、4歳児健診でも付与。

○子育てサロンに行くと10p、週5日で50p。  
ポイントは、町内のお店で1円/1Pで使える。

#### 協働の取組

石見養護学校・矢上高校・製材業者・福祉施設・行政が協働して、木工の積み木を、1歳6カ月健診時に「お誕生お祝い品」として贈呈する。

平成29年度は70名に贈呈。

#### 子どもを守る相談室を設置

専門スタッフによる相談体制を充実。

庁舎ロビーには木のぬくもりあるキッズスペースを設置、お子様連れの来訪者にも対応。

定住には、町の様子をそのまま説明、見てもらい納得した方が転入される。

冬は雪で大変なことも承知の上で来られる。

定住相談体制を2名増員して対応に当たる。

#### 感想

年間一般会計110億円余りの予算の中で、これらの事業を行っている。

邑南町は、人口減少が頻拍したことがきっかけでスタートしたが、職員数50人余りと町民全てが子育てや移住促進に取り組んでいる様子を、まざまざと感じた。

#### 3日目

阿武町は、山口県日本海に面した森と里、海が連なる豊かな自然環境に恵まれた町。大地の様々な恵みを享受することで営まれてきた。

令和元年6月末現在、1,580世帯、人口3,281人、面積115,95k㎡で松伏町の約10倍。山林は85%である。

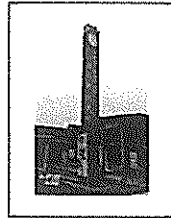
阿武町は道の駅、発祥のまちでもあり、平成3年から進めてきた施設が平成5年4月に完成し、全国第1号の駅としてスタートする。

建設から20数年から経過する中、売り場面積の不足や一体感に架ける施設配置、経営構造など利用者のニーズにこたえるため、平成25年施設のリニューアルを図る。

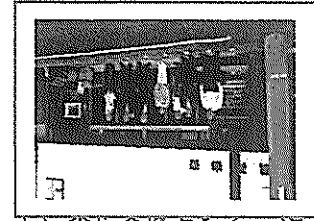
工事費は建築設備や屋外施設、健康遊具、防犯カメラなど総額で8億2300

万円余り。町予算の1/4を投入しての整備と聞く。(年表は別紙にて記載)

駅舎全景



魚介類を求めて



今では、赤字も解消する賑わいで、毎朝10時開店前には新鮮な魚介類の買い物で行列ができるほど。当日は雨の影響か30人前後。毎日来ますと声が上がる。

待ち合わせの場所が、道の駅。議長さんの出迎えで、駅の説明から始まり、場所を町内の「暮らし支援センター」に変えてPPで説明に入る。

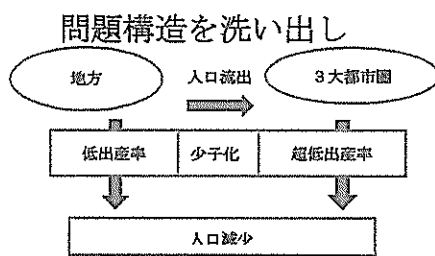
説明者は、担当2年を有するまちづくり推進課岡村未莉さん。

愛媛県から山口の大学に進み、阿武町の魅力にひかれ、奉職につくという。

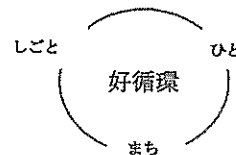
平成29年4月 阿武町版総合戦略「選ばれるまち」をつくる。

2015年 国は目指すべき方向として

- ・ 地方における安定した雇用創出
- ・ 当たらしい人の流れ（東京一極集中の是正）
- ・ 結構・生み育てやすい環境づくり
- ・ 特性に応じた地域づくり



好循環な町を目指す



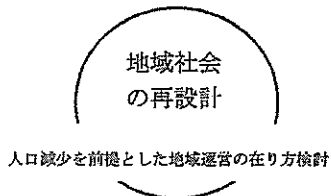
### 実現に向けた前提条件

◇人口は2000年以降「全減期」に入っている

- ・ 2000年に老年人口が減少に転じ始めた→人口減少が加速
- ・ 全国に比べ40年早いスピード

関連データ

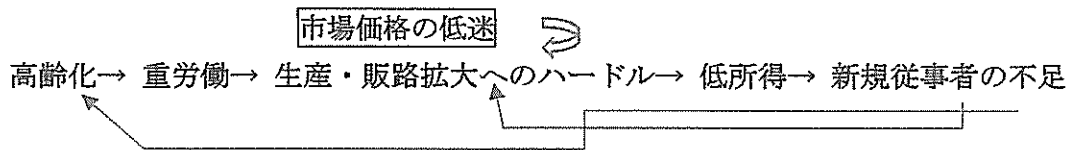




項目	指標値	県内順位 (19市町村)	データ
年少人口割合	9.0	17	2015年
生産年齢人口割合	43.0	17	2017.10
老年人口割合	48.0	3	2017.10
人口増加率	▽2.52 (%)	17	2017.10
出生率(人口千人当たり)	1.5	19	2017.10
婚姻率(人口千人当たり)	0.61	19	2017.10
死亡率(人口千人当たり)	31.9	1	2017.10

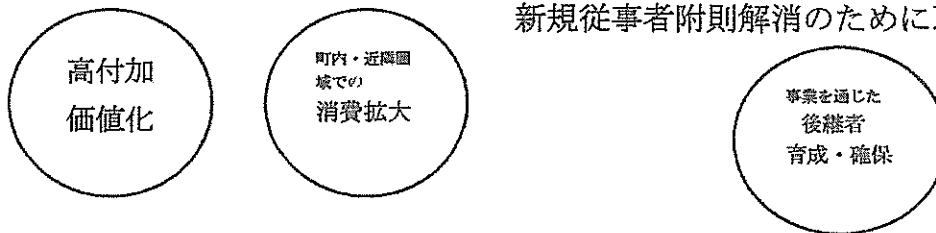
◇基幹産業の維持が困難になっている

基幹産業が抱える課題



所得安定化・所得向上のために取り組む方向

新規従事者附則解消のために取り組む方向



地方創生への取組(第1期)

■総合戦略関連事業の流れ

- 2015年度 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)交付決定  
阿武町版総合戦略「選ばれる町をつくる」策定  
阿武町人口ビジョン策定
- 2016年度 「地域創生加速化交付金」交付決定  
・各事業の推進
- 2017年度 「地域創生推進交付金」交付決定
- 2018年度 各事業の推進  
・阿武町暮らし支援センターshibano 開設  
・各種実証実験(魚の付加価値流通・薪の流通など)
- 2019年度 「地域創生推進交付金」交付決定  
・次期総合戦略及び第7次総合振興計画策定開始

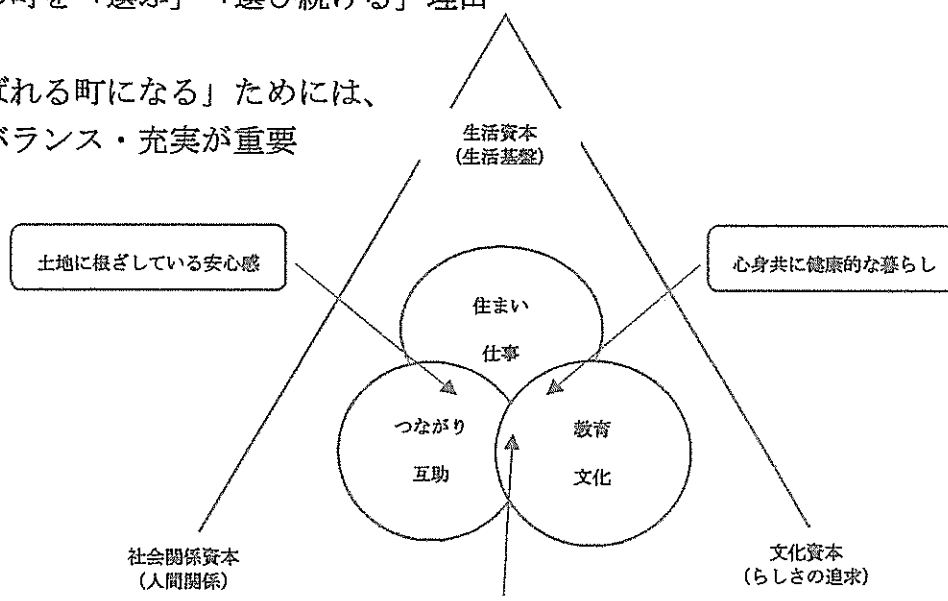
・各事業の推進

■主な成果（2016・2017年度累計）

- 空き家開放に関する意識喚起：講座等16回 延べ参加者354人
- 空き家バンク登録件数：19件
- 仕事と住まいの相談件数：99件
- 短期間就労希望者と求人とのマッチング：10名受入れ
- 活動人口づくり：延べ406人

■人がその町を「選ぶ」「選び続ける」理由

→ 「選ばれる町になる」ためには、  
各資本のバランス・充実が重要



交付金事業の概要

1 選ばれる町阿武町創生プロジェクト

本町の移住・帰郷・定住ニーズに的確に応えるとともに、豊かな自然環境の中で多様なライフスタイルを求めている若者あるいは子育て世帯をターゲットとした移住・定住を促進し、町の賑わいを創出する。その際のハードルとなる住まいと仕事の提供数の充実とつながりの創出を阿武町版総合戦略（2015年策定）に基づき、継続的に行う。また、次期5年間を見据えた方針の策定を行う。

2 森里海新たな仕事創出プロジェクト

【水産業】 専門家を毎月承知し、技術指導、販路開拓・六次産業化に関するアドバイス、道の駅スタッフ等への販売指導、第一次産業を就業先とするた

めの啓発活動、各種研修会など。

【林業】中山間地域で注目されている長伐期施業の system 手法を取り入れた自伐型林業を推進する。モデル林を創出しながら町民及び移住者向けの研修を開催し、地域の生業としての林業を再構築する。施行技術のみならず、製材や薪利用を促すことで出口対策も並行して実施する。

### 3 まちの縁側推進プロジェクト

阿武町を訪れる人々の滞在時間を延ばし、阿武町の暮らしを知り、移住・定住・関係人口の増加を促進するまちの縁側機能を構築する。専門家を承知して阿武町の玄関口である道の駅等に、滞在型交流拠点（キャンプフィールド、ビジターセンター、簡易宿泊所）を整備するための全体計画、基本設計、デザインなどを実施するとともに、阿武町暮らしを見せるための暮らし体験プログラムの開発・運営体制の構築支援を行う。また、道の駅を拠点とした地域内経済循環を促進していく中で、地域内循環の現状を可視化する。

終活があるならば、家活もあっていいのでは！

「家の未来帖」を作成、全戸配布する。

大切な家を継ぐか、閉じるかを決めようとするあなたを応援する冊子。

この小さな町には、不動産屋などの家の未来を相談する場所はありません。

そう私たちは、家の未来について自分で考え、決め、動かなければならないということです。「いつか」考えなければいけない未来のこと。けれどもその道のりを思うと、一人で進んでいくのが億劫になる方もいるのではないのでしょうか。「家の未来帖」は、そんなときに必要となる「話す」「決める」「動く」ことを応援する冊子です。



小さな町が必死に人口減少と町の活性化に取り組む姿、職員のやる気を感じ

た。上司は部下を信じ、コンサルトのやり取りから未来帖なるものを考案。

補助金を毎年受けられることで事業が進められてきた。

松伏町は、何を目標して人口増や活性化を図ろうとしているのか。一向に見えてこない。

以上、視察の一端ですが、報告とさせていただきます。